基本的施策 10：【農村】農業・農村の持つ多面的機能を発揮するための環境整備の推進

目標項目	単位	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	目標	評価
生活排水処理人口普及率	%	77	81	84	87	89	91	92	93	93	90	予定より早く事業を進め、目標達成している
耳納北麓交流人口	万人	137	140	177	137	189	185	189	180	－	150	ほぼ毎年目標を達成している

基本的施策（主な事業）

前期計画（H18～H22） → **後期計画（H23～H26）**

農村環境の保全

農地・水・環境保全向上対策：
- 地域組織で農地や水を守る共同活動(H25：85 組織、農用地の 62%である 4,681ha)
- 農業用施設の長寿命化を図る向上活動(H25：15 組織)

日本型直接支払制度(H26～)
農地維持、資源向上支払

中山間地域等直接支払交付金(集落等で農地を維持・管理する協定を締結)

農村生活基盤整備

農業集落排水事業：
農村地域の混住化の進展等に伴う農業用用排水の水質を防止し、農村地域の健全な水環境に資するとともに、生活環境向上を図るため、「久留米市生活排水処理基本構想」を H20.8 策定し、計画的に整備。
供用開始状況･･･田主丸(三明寺・善院、柴刈、富本・隈・西郷地区一部供用開始)、北野(赤司、南部）、H26 全地区完了

みどりの里づくり推進

第 1 期みどりの里づくり基本計画(H13～H22)、第 2 期みどりの里づくり基本計画(H23～H27)

ふれあい農業公園(H10～、利用者約 113 千人/年、市民農園 238 区画(利用率 98%)、ふれあい広場)

道の駅くるめ(H20.5 開駅、来館者約 158 万人/年、ファーマーズマーケット、レストラン、交流研修室)

つばき園(H20.3 開園、500 種、2,000 本、国際優秀つばき園)、
国際ツバキ会議(H21、16 カ国、234 人)、つばきフェア(H21～、H26：約 4.2 万人)
…全国有数の緑化木生産地、ツバキ苗木生産の PR

世界のつばき館
(H26.3 開館～H27.3 末まで 53,599 人来場
･･原種ツバキ 100 種､160 本庭園 50 種植栽、情報交流施設(情報発信、体験・交流)

「みどりの里・耳納風景街道」(H24.3 認定)

都市と農村の交流

観光農業の推進
- 年間通したフルーツ狩りの福岡都市圏での PR、「ほとめきのお花実会」開催支援

事業の成果と課題

① 国の事業を活用し、農道や農地、用排水路の維持を行い、多面的機能を発揮するための地域活動を支援してきた。
② みどりの里づくりの各施設やフルーツ狩など、久留米市には都市部から集客できる魅力ある資源が充実している。これらの資源を農業者・農業団体等と連携し、PR や活用することで地域の活性化を図る必要がある。
③ 観光農業推進事業は主に PR 事業に力を入れてきた。今後は飲食施設や加工品等の販売、観光農園にも取り組む必要がある。
④ 道の駅くるめや世界のつばき館の整備で集客向上が図られたものの、さらなる耳納北麓地域の回遊性の向上が課題である。
⑤ 風景街道の登録により、耳納北麓地域の魅力向上を図ることができた。今後も都市と農村の交流や情報発信強化を図る必要がある。
⑥ 国際ツバキ会議やつばきフェアの継続開催により、つばきを中心とした緑花木の PR ができた。

総評価

目標指標にあるように耳納北麓地域を中心とする農村地域への交流人口は増加しており、農村地域の活性化が図られていると一定の評価はできる。みどりの里づくりエリアの資源をつないで、1 年を通して間断ない魅力の発信や地域との連携など、農村地域のさらなる活性化の取組が必要である。